

沖繩作戰
ニ於ケル
重砲兵第七聯隊
史實資料

昭和二十二年三月二十五日
第三二軍業務整理部

部隊経歴

昭和十六年十月一日大政府府中中部第三部隊ニ於テ編成着手

五日編成完結、六、大阪港出発、一二日、沖繩縣那覇港到着

三日、那覇港上陸、四日、那覇港出発

同日、沖繩縣島尻郡與那原到着、左ノ如ク配備、三、中城灣、警備ニ任ス

附隊本部與那原、第一中隊（津堅島）、第二中隊（伊計）、第三中隊（平敷

第四中隊（那覇）、十一月十五日、津戦備下令、日津戦備完結

昭和十七年九月一日、編成改正、依「左」如ク、配備、三、中城灣、防衛ニ任ス

附隊本部（與那原）、第一中隊（津堅島）、第二中隊（知念半島）

第三中隊（小線）

昭和十九年四月一日、中城灣要塞司令部、隷下ヲ離シ、第三工軍、隷

ス、獨立現成第百四旅団ノ指揮下ニ入ル

五月十五日、中城灣要塞軍砲兵附隊ヲ重砲兵第七附隊ニ改稱セラル

附隊本部ヲ與那原ノ東南南気山麓ニ移駐ス

第三中隊與那原聯隊本部へ移駐ス

一月十二日 独立混成四十四旅団、指揮下ヲ離レオ九師由、指揮下ニ入ル
十月十日 南西諸島、空襲對空戦ヲ参加

昭和三年 月日ヲ三中队大里村西原へ移駐ス

三月二十三日 聯隊本部ヲ大里村大里城駐本部陣地ニ移駐ス

四月日 津笠島戦ヲ参加 五月日 雨ノ大里西原戦ヲ参加

五月日 稻福、慶良原戦ヲ参加 具志頭ニ於テ挺身斬込ニ参加

戦ヲ經過ノ概要

一、戦ヲ開始時、態勢要圖、如シ

二、戦ヲ經過、其一

昭和三年三月二十三日。敵艦載機編隊ヲ以テ本島上空ニ出現
銃爆甚テ開始ス特ニ海岸線船海浜部落等ニ指向シ威力偵
察ヲ行ヘリ甲号戦備下令聯隊ハ直ニ要圖其一、如ク配備
ヲ完了警戒ヲ嚴ニス

二月二十四日 漆川、中城湾正面ニ敵機動艦隊 出現艦砲射撃ヲ開始

聯隊ハ極力損害ヲ避ケルニ資シ資材ヲ拵テ掩護ニ任ス

三月二十七日 敵上陸用舟艇約五六隻ヲ以テ漆川及カキヤ原ニ對シ

場動的偵察偽上陸ヲ實施ス聯隊ハ戦ヲ準備満テ得ス

四月三日 小那覇警備第三中队野田小隊ハ津波、敵ト衝突ス

四月四日 知念半島警備第二中队八海軍砲台ニ速加ヲ以テ中城湾

敵艦船ヲ攻撃掃海艇ニ隻撃沈巡洋艦一隻ヲ損害ヲ與テ

同日敵艦船、集中攻撃ヲ受テ破壊使用不能トナシ

小那覇警備第三中队野田小隊ハ四月七日ヨリ連日敵ヲ攻撃シ敵

砲兵制圧及陣地ヲ破壊並ニ歩兵陣地ヲ攪乱ス

四月十五日 敵直進弾ニ依リ火砲破壊セルニ依リ挺身斬込隊本部

陣地ニ移動シ小那覇ニ退却ス敵ヲ攻撃ス

四月十五日 敵、爆薬ニ依リ隊編帯ヲ爆破セル

10. 大里村(西原)ヲ三中隊小部襲回原附近ニ出没を敵戦車ヲ攻虜ス

三、其ノ二 大里ニ近ク

二、四月七日 敵機動艦隊一部約二百名津登島ニ上陸津登島

中備力一中隊善戦之ヲ果退ス

一、四月九日 敵八艦砲ヲ以テ津登島ヲ攻虜ス

三、自四月十日 至四月十二日 敵有カテ部隊再度同島ニ上陸ヲ開始步兵一隊共

善戦敢斗果退ストド兵員殆ど大部ヲ失フ

六、四月十三日 敵影ヲ見カニ三ノ旅団ヨリ原隊復帰ノ命ヲ受ケ二四〇〇現地

小舟艇ヲ以テ勝連半島ニ撤退ヲ図ルモ状況之ヲ計サズ隊ニ中城灣

突破ヲ企テ残存兵力 名ヲ 復ニ介介セシメ敵艦船団網ヲ突

破聯隊本部へ六〇到着ス

五、敵艦船網ヲ突破出来得ス津登ニ引返シタル者 名之ヲ救助為

知念半島ヨリ 名挺身隊ヲ津登島へ送りタルモ舟艇ヲ深ニ得ズ敵

津登島残存留員ト洞窟内ニテ過ス

六、四月十三日 敵、再度上陸ニ依リ激戦、後僅ニ患者七名ノ舟艇ニ依リ敵艦

船団ヲ突破知念半島ニ漂流セルニ依リ知念半島才ニ中隊陣地ニ收容

江藤衛生准尉ヲ急行セシメ治療ヲ施ス

七、四月日 工井曹長以下百名挺身隊ト成リテ津登島救援ニ赴クモ敵艦

ニ発見セラレ集中攻撃ヲ受ケ舟艇ト共ニ中城灣ニ沈ム

四、其ノ三 四月日 津登島生還者ヲ主体ニ第一中隊ヲ編成シ慶良原海軍砲台

ニ中備ニ任ス

二、五月十七日 西原ノ才ニ中隊火砲若ド破壊セラレ又兵員半数以上消滅

三、同日 隊編編帯ヲ連日患者ノ激増ニ依リ收容力無キ為知念半島

ニ患者收容所ヲ設ケ江藤衛生准尉ヲ患者收容所長トシ才ニ中隊長

ノ内務上ノ指揮下ニ入ラシム

五、音子合風雲急ヲ告グルニ依リ患者收容所ヲ知念半島、突端ニ移動ス

聯隊本部ト別レテ患者收容所ノ行動

五 其ノ四

- 一 六月四日。七〇オ中隊ヨリノ傳令ニ依リ一八〇〇名念半島脱走ニ決シ患者七〇名ヲ六班ニ分ケ添川ヲ渡河敵中突破ヲ敢行具志頭及中座ニ到着スルモ余中敵ノ攻襲ヲ受ケテ三人ト散班ニ別行動トナレ
- 二 六月五日中座独立混成第四旅團司令部ヘ到着聯隊本部ノ位置尋ネタモ不明同日夕刻隊編帶所ヲ摩文仁部落ニ発見一九〇隊編帶所ヘ到着同夜ニ〇〇摩文仁出発名城ニ到着ス
- 三 六月十日狀況悪化ニ依リ喜屋武岬ニ移動ス
- 四 六月十四日知念半島ハ突破ノ爲出発スルモ途中挫折六月十七日喜屋武岬ニ引返ス
- 五 六月十九日喜屋武ニ敵戰車連駐ニ依リ一七三〇喜屋武出発小渡ニ向テ
- 六 六月二十日小渡到着狀況悪化ニ依リニテ二日摩文仁ニ出発ニテ三日摩文仁到着持久戦ニ入ル

重砲第七聯隊津整島部戰鬥經過概要

一 我が軍ノ兵力

- 一 昭和十九年十月十日
- 一 重砲兵第七聯隊第一中隊中隊長以下約百三十名
- 二 独立混成第四旅團(独立歩兵第十五聯隊)ヨリ少隊長以下約30名
- 三 防衛隊津整獨立中隊約四十名 計二百名
- 四 別島民女子ヨリ選抜補充看護婦約十名
- 五 十月十日南西空襲重機ニ依リ應戰ス部落兵舎等ニ機銃掃射ヲ受ケテ損害輕微灯台ハ炎ス
- 一 昭和二十年一月二十二日
- 機動部隊ヨリノ空襲タメ兵舎炎シ若干ノ損害ヲ部落モ亦相當炎上セリ爾後空襲頻繁ヲ極メ
- 一 三月二十日拂曉友軍偵察機一機津整上空ヲ東方ニ脱去セシ後數分ヲ出スニテ久高島後方水平線上一帯ニ對シ空砲炎亦米艦隊未幾ヲ察知艦載機ニ依リ空襲

二月二十四日 艦隊八隻姿ヲ現ハシ知念岬及久高島ニ對シ砲撃開始
甲号戦備下令天一号作戰開始ニ當リ賜ヒ勅語傳達ナル
三月二十七日 頃 四四旅团长八部基正面ニ米軍 上陸ヲ予相心ニ作戰
ニ突スル細部指示並ニ訓示ヲ発ス津堅地区隊長停島大尉ハ之
ニ其旨各少隊長ト打合テナス
四月一日 頃 ヲリ小艦隊ハニッ口水道ノ掃海ヲ開始ニ除々ニ湾内ニ侵
入シ来リ掃海ヲ終了

四月三日 頃 ヲリ巡洋艦 巡艦 侵入シ本島西原與那原馬天等
砲撃津堅ニ對シテハ攻惠ニ来ラズ津堅地区隊長ハ津堅ニ對シテ陸
ニ来ル場合ノ外ハ射惠ヲ禁止セリカカ部隊本部ヨリ湾口通過ノ艦
艇ハ其ノ艦種ノ如何ヲ向ハカ射惠セズトノ命アリ射惠ノ機ヲウカカリニク
洞屋陣地ノタメ射界狭少ナルニ射距離短シノタメ好機到ラズキ
四月五日 米軍掃海艇ハ津堅偵察ノタメ近接ニ来ル之ニ對シ直ニ射惠
開始命中彈ヲ出セシメモ裏破セシムラズ野砲及明治三年頃佛國
ヲ賸入セシメ速射加濃ノ如クモニテハ旧式ニテ用ラサズ射惠後直

ニ湾内ニアリシ艦隊ヨリ砲惠ヲ受テ約八十艘ヨリ成ル爆撃機ヨリ約二百発ノ
爆惠ヲ被ルサト水際ノ偽陣地ニ集中セラレ我ニ損害ナシ深夜ニ至リ西海
岸ニ約三四百奇襲上陸ヲ決行シ来ル水際附近於テ我ヲ発見スル處トナリ兵
隊之下突戦ニシテ斬込隊突撃奮戦結果ニラ裏退陣際吾兵隊長ヨリ野砲
一枚水際射惠ヲ要求シ来ルニ我ハ其ノ威力ヲ暴惠スルニ決シ射惠セシメ
難攻陣中鷹野前隊兩軍皆ハ戦死ス米軍ハ遺棄セシメ吾若強襲多數戦後
連日手ニ陣地ニ上陸加陣地部悉等益烈ナル砲爆惠ヲ受テ部落ハ全ク焼失倒
壊ニ陣地ハ何等損害ナシ又我ハ兵ヲ免テス
四月八日 頃 ヲリ津堅ニ對シ偵察ハ細部ニシテ輕艦艇ハ南海岸附近ニ近接
偵察機ハ懸機中ニシテ施廻ス尚南海岸ニシテ附近ニ早大連隊隊が出現シ
偵察機各内ニシテ射撃セリ愈々上陸 近キニ思ハルニ夜間防衛隊員
ニテ者來艦云撤去ス
四月十日 頃 巨大ノ輸送艦數隻灣内ニ侵入シ来リ短時間砲撃後水陸軍用
戰車先頭ニシテ用舟艇多數南海岸ニ突進ニ来リ我軍全ク戰備
手及指示ノタメ一渡者ニ渡ル自由ニ許セシメ我軍ヲ射撃ノ開始ス

我が負弱を大万ハ上陸ヲ阻止シ得ル上陸兵力戦車ニ去。要領ニ至リテ
戦車續々十三速加陣地前ニ射撃中ニ一分隊ニ対シ集車砲火ヲ浴ビテ
ニシテ砲内ニ命中分隊長態軍曹以下ヲ全員戦死掩護兵隊員
陣地ニ應戦セシメ次ニ破壊セルレ隊長四腕中射八陣地放棄ニ決シ告兵ト戦斗ヲ
交ハシ除ケル陣地ニ伺ヒ後退ス途中旧海軍兵舎附近ニ終テニ戦斗ハ最激烈
ヲ極メ八陣地ヨリ尚モ一本松ニ向テ後退ニ此処ニ於テ告兵隊擲弾筒分隊共應戦
一方後側部路ヲ通過シ三六陣地正面多數出現セル米兵ニ対シ位分隊ヨリ擲榴霰彈
射撃ヲ浴ビ退却之ヲ退却セシメ八南海岸沿ニ迂迴ニ野砲レ隊三角兵舎ニ侵
入シトセシ力ヲ看破セシ地ニ隊長ヲ隊長ヲ小銃分隊ヲ右高地ニ配置セシ
戦斗結果之ヲ退却ス斯クテ一本松附近ニ於テ激烈ニ戦斗ヲ交ヘ我軍
一本松確保内日没トナリ戦斗ハ其明日ニ戦備為夜ヲ徹ス即チ残存重機
三六陣地入口ヲ據ヘ安兵隊ニテ守備一方森陣地野砲レ隊告兵レ隊會流
一本松ヲ確保セシメ

一四月十一日早朝ヨリ再々一本松ニ対シ攻撃ヲ加ヘ来ル奮斗セシテ除ケニ圧迫ニテ遂ニ
一本松ヲ放棄スルノ上ムナキニ至ル然レ共森陣地部隊及三六陣地入口重機ノ意戦ニ
依リ米軍ヲ一本松ニ釘付ケトスサレト續々兵力ヲ増シ来レルタテ野砲レ一分隊ヲ洞
窟ヨリ出シ一本松ニ対シ榴霰彈射撃ヲ行ヒ相當効果アリキ然ルニ午後ニ至リ
迫裏砲ノ集中射撃ヲ浴ビ砲身ニ一発命中使用不能トナリ為ニ愈々ニ六
陣地森陣地至近距離ニ接近シ来ルタテ中隊長ハ突裏ヲ決意シ森陣地
部隊ト所應シ全負一本松ニ突裏シテ激戦、後退スサレト我軍ハ大損
害ヲ被リ地ニ隊長ハ到底一本松ヲ死守シ得ストテ之ヲ放棄ニ決シ一同三六
陣地ニ集結ス野砲レ一分隊ハ自ラ破壊シ斯クテ三六陣地ヲ唯ノ頼トシ
重機一ヲ命ノ綱トシテ極力應戦米軍ハ陣地前十米附近ニ接近シ来
ルニ擲弾筒レ確保ス東退スル迄ハ集中射撃ヲ受ケ終ニ擲弾筒トナリ重
機ハ好調ト相保ツテ陣地前ニテ米軍ヲ固着セシメ戦車ハ部落破壊石垣
ヲ自然ノ障壁トナリ陣地ニ接近シ得ス我軍ハ有利アリキ斯クテ日没近ナリ
約三分間ニ亘ル戦車砲レ砲臺ニ依リ戦斗ハ上ハ愈々明日ハ最後ト全軍戦備

ニ夜ヲ徹シ三陣地ニ集結重傷者ハ自決ス

一月十二日朝ヲ迎フルモ一向ニ攻車ニ来ル模様ナシ依テ全員ヲ介候トシ敵散ラ
偵察スルニ米軍ハ撤退シ兵モ残存シラス故ニ直ニ之ヲ部隊本部ニ報告

セリニ旅団命令ニテ全員勝連半島ヲ渡リ敵中突破與那原ニ来レトノ
入電アリ舟無キモ地ニ隊長ハ即夜クリ舟ヲ勝連ニ渡ルニ決ス重傷者ハ津堅
ニ残置ニ後日本島ニ收容スルニテ晝間取進準備及戰場掃除ニ多忙ヲ極

戦死者理落シ墓標ヲ建ツ戦車内薄攻重班分隊長以下多数戦死セルモ
二名ノ生存者歸来ス愈々夜ニ至リ中隊長以下約四十名拾散ノリ舟ニ分乘

ニ勝連半島平敷ニ向テ無事ト陸ニクリ舟ヲニヤニルニ隠蔽全員分散ス
一月十三日夜明ケト共ニ米軍機頭トシ飛ヒ交ヒ行動ニ得又中隊長ハ防衛

隊員ヲミテ附近住民ヲ招致セシナ米軍ノ状況ヲ聴取セルニ敵中突破ハ
不可態アリト判断シ寧シ艦艇充滿セル湾ヨリ横断スルヲ成功ノ公算大

アリテ之ニ決定ス但ニ現在ノ位置ハ出発ニ不便ナルノミナラス米軍ニ発見
カル、恐レテタメ勝連半島尖端ノ屋敷久島(無人島)ニ移シ決ニ夜間全員

屋敷久島ニ移動ス

一月十四日晝間全員ニテ急ニ夜間ニ移シ屋敷久島ニ待テ海ノ約八里

タリ舟ヲ急行突破セシトス若シ米艦隊ニ発見サレバ其運命ハ大ニ見ルモ

朝子ヲ放棄シ舟ハ與那原ヲ目指シ暗夜ノ海上ヲ次々ト出発ス然レ共西脇

中尉玉野曹長永峰曹長指揮スル舟ハ米艦ニ発見追跡サレ或ハ舟

水源ノ舟ヲ津堅ニ引歸セリ津堅ニ引歸セルニ隻ノ乗員ヲ救免四羽

中尉指揮ノ下西脇岸洞窟ニ赴クニ翌日午後夜間度塔ラ回ル出発後

金竹船ノ過半ニ達セシニ本島トシテ照明彈ヲタナ海ノ上ニ晝間

如クテ逃海艇ニ発見セラレテ處トナリ其追跡ヲ免ケ止ムナク津堅ニ引返

シ對テ警戒嚴シカキ各舟中ニシテ自ラ決シ

一月十五日頃先中隊長ハ其ニ海ノ突破ニ参加セシ村口軍曹ハ舟

數隻ニテ敵各々突撃隊隊員ヲ乗船セシテ知念岬ヨリ西脇岸ニ

到着スルニ重傷者ハ收容ニ来ルモ其言ニ依テ中隊長以下全員

津堅岸ヲ到着スルニ大島陣地ニ疎濠ヲ掘リ合流セテ西脇岸

以今全全備下三得直三出先準備掛り車傷者多ク分り舟
不足セルヲ以テ兵ヲ派シテリ舟ヲ鬼集セシメタル附近一隻タモシク
遂直ト得テ今四日之三分集ニ出先セリトモ重傷者運搬其他
三時間ヲ要シ全船完了セシハ早ヤ二時三十分頃トナリ今ヨリ出先セシハ除中
二夜八明々失敗ハ明カナルヨリ再ヒ初五二十五日夜ニ出先ラ延期
全員三陣地ニ引キ多ク

一四月二十五日斯クニテ二十五日朝ヲ迎ヘタルニ突如トシテ米軍ノ来艦アリ
我々警戒ノ不備トシテ為メ敵ノ上陸ニ来レルヲ察知得ズ既ニ三陣地附近
ニ接近シ来ル我々軍ハ前戦半ヲ破壊サレニ重機修理セシモノヲ三六
陣地入ニ搭入艦戦セヨニ三六砲ノ射撃ニ故障発生ニ使用ニ得ズ
加テ戦斗ニ堪ヘ者少ク遂ニ洞窟入りヲ約セラレ爆弾手榴彈ヲ投入セシ
又部ヨリ銃手榴彈ヲ應戦ニ居ルカ負傷者續出午後二時頃到リ
火焔放射者依リ内都ニ放火セシ陣地ハ猛火ニ包テ斯クニ重傷者其
他ハ殆ト自決セリ其内米軍ハ撤退ニ攻盡ラ加ヘ来ララルヲ以テ生存者
ハ猛火ノ洞窟ヨリ脱出尚洞窟ヲ撥テ穴ヨリ補助看護婦所衛隊員

等多數脱出ニ成功セリ兵力ハ約十数名ナルカ大部分ハ負傷ニ居リ
ヤト之等ハ亦吉川伍長ノ指揮依リ本島ニ脱出ニ其郡原ニ於テ中隊主力
ニ合流シタリ

一四月二十七日(二十八日)頃米軍南上陸ニ来リ残存兵力ノ少ク出シ行ヒ
能カ前記吉川伍長以下ハ先見サレルコト無ク同夜奥郡原ニ向ヒ脱出セリ
此際米軍ハ島民全部ヲ本島勝連村南風原ニ移動セシタリ
二十五日戦斗ニテ重傷ヲ負ヒニ六陣地入ヨリ倒レアリシ永峰曹長ハ
二十七日ニ来レル米軍ニ收容サレタリ

以上

津堅島要圖

1
25000

47野砲第一分隊
 42野砲第二分隊
 1工速加第一分隊
 口工速加第二分隊
 八十二速加小队棲息所
 △三六陣地

